

中学校地理的分野におけるワンポイント巡検の実施計画案

— 神奈川県大和市立渋谷中学校周辺を事例として —

松岡 路秀（神奈川県大和市教育委員会）

- 1 対象学年・学級：中学校第1学年
- 2 教科・科目：社会科地理的分野
- 3 対象地域：神奈川県大和市立渋谷中学校区
- 4 実施計画案作成年月日：2010年2月14日
- 5 単元名：「身近な地域の調査」（全9時間）
- 6 単元の目標
 - ①ワンポイント巡検で、学区の台地と低地とでは都市化の進展（時期・土地利用など）にちがいがああることに気づく。
 - ②それを大和市全体にまで広げて「大和市の都市化」について調査し、まとめ、発表する。
 - ③都市化の進展にともなう大和市の課題と将来像について考察し、意見交換する。
- 7 単元の指導計画

時	学習内容	学 習 活 動	資 料
①	「身近な地域」の調査方法の学習、ワンポイント巡検の事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な地域」の調査方法の学習 ・ワンポイント巡検のテーマ・観察方法・諸注意 ・巡検コースの確認、ワークシートの書き方 	ワークシート 地形図
② 本時	ワンポイント巡検	<ul style="list-style-type: none"> ・崖の上と崖の下とのちがいを探す。 	ワークシート 地形図
③	ワンポイント巡検で観察したことの地形図での確認と地形図学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンポイント巡検での観察事項を地形図で確認することを通して、地図のきまり（縮尺・方位・地図記号・等高線など）について学習する。 	ワークシート 地形図
④	ワンポイント巡検の事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・台地と低地の都市化の進展（時期・土地利用など）にちがいがああることに気づき、その要因を探る。 	ワークシート ルートマップ 地形図
⑤ ⑦	「大和市の都市化」を調べ、まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・大和市全体ではどうなっているのか、地域を広げて「大和市の都市化」について、各自がテーマを決めて調査し、まとめる。 <テーマ例>人口の推移、住宅地化、工業の進展、都市化による問題、最近の変化と問題点、今後の課題など 	図書館資料 インターネット
⑧	「大和市の都市化」調査の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の調査結果の発表を通して、大和市全体の都市化についての理解を深める。 	
⑨	大和市の将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・都市化の進展にともなう大和市の課題と将来像について考察し、意見交換する。 	

8 ワンポイント巡検（本時）の計画

(1) テーマ・目標

本ワンポイント巡検のテーマは、「崖の上と崖の下とのちがいを探そう」である。地理的事象でいうと、「都市化の進展—台地と低地のちがい—」ということになる。

本ワンポイント巡検の目標は下記である。

- ①台地上は畑・果樹園など、低地は水田という、台地と低地の農業的土地利用にちがいがああることを観察する。
- ②台地上の畑や果樹園は一戸建住宅などに、低地の水田は大型団地や学校などに転用されているとい

う、台地と低地とでは土地利用の変化にちがいがあをを観察する。

(2)実施形態

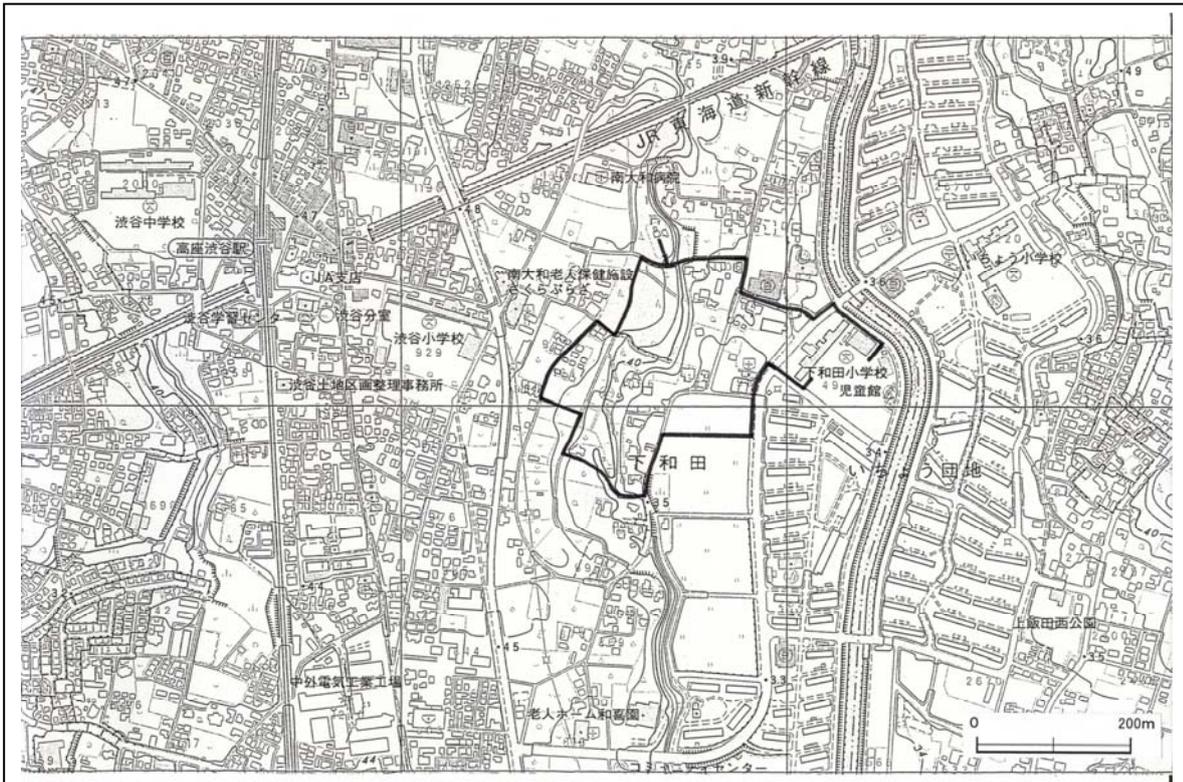
1クラス単位で実施し、授業担当者が引率していく。安全確保のため、学年の空きの教員1名の同行をお願いします。

実施時間は、1単位授業時間の50分で行う。コースは約1,200mで、歩くだけなら15分間位の距離であるが、30~40名の生徒を引率して巡検するわけだから、実際の所要時間は40分間位とみている。

(3)ルートマップ



地形図



国土地理院 1万分の1地形図「福田」(平成14年1月1日発行)

(4)観察方法

コースを歩きながら、「崖の上と崖の下とのちがい」という観点から、観察したことをワークシート（ルートマップを拡大した白地図、観察ポイント未記入）に記入していく。

(5) 観察ポイントと観察内容

① 渋谷中学校

1947年に開校した渋谷中学校は、もともと小田急江ノ島線高座渋谷駅近くにあったが、1993年からの駅周辺の「渋谷土地区画整理事業」にともない移転することになった。移転先は、2002年3月に統廃合された下和田小学校跡地で、2004年4月に新築移転したものである。

② 境川

境川は、かつての武蔵国（現在の東京都町田市、横浜市など）と相模国（現在の相模原市、大和市など）とを分けると同時に、地形的にみても武蔵野台地と相模原台地を分ける境の河川である。

かつては激しく蛇行しており両岸に沖積低地を形成し、頻繁に洪水をもたらす暴れ川であったが、現在では河川改修により直線化が進んでいる。

③ 幼稚園

1974年に開園した幼稚園で、1973年1月から入居が始まった県営いちょう団地の建設にともなう幼児の増加を見込んだものと考えられる。渋谷中学校の敷地にあった下和田小学校も1974年4月開校していることと合わせると、大型団地の立地に起因していることがわかる。

④ スーパー

食品館と家庭用品館からなるスーパーマーケットで、開店は1979年であるが、土地開発の許可は1974年10月に受けており、大型団地の建設時期と一致しており、団地住民の集客を見込んだものと考えられる。

⑤ 長屋門（古い農家）

長屋門は両側に長屋を備えた門で、封建時代には家格の象徴であり、農村にあつては村役人層などの屋敷に設けられたものである。この農家は江戸時代末には組頭や名主を勤めており、この長屋門の建築年代も江戸時代末期と推定されている。長屋門の残るこの位置から、江戸時代の集落の立地場所を確認することができる。

⑥ 段丘崖

相模原台地上と沖積低地との段丘崖で、地形図から読みとれる標高差は15m位である。生徒たちも坂道を登ることで、低地と台地上の標高差を実感することができる。

⑦ 神社

この神社は「左馬神社」といい、この地域（下和田）の鎮守で、江戸時代には「鯖神社」と記されていた。この事実は、境内にある寛政元年（1789年）の常夜灯に「鯖大明神」と刻まれていることで確認することができる。境川沿いには、「サバ神社」と称する神社が多く存在し、その内の7つのサバ神社を1日で参拝する「七さば参り」は、ほうそう、はしか、百日咳に御利益があるとされる風習が伝えられている。

⑧ 墓地

崖下の集落の墓地で、観察ポイント⑤の長屋門のある農家の墓地もここにある。その農家の初代のお墓には寛永十九年（1642年）と記されており、江戸時代初期ということがわかる。

⑨ 平地林

段丘崖は林で、台地上も開墾されるまでは平地林であり、その名残を確認することができる。

⑩ 一戸建住宅

高度経済成長期以降の都市化の進展にともない、畑の宅地化が進んだ。道の両側の一戸建住宅の建築年を聞き取り調査してみるのもいい。

⑪ 果樹園

大和市南部での台地上のもう一つの農業的土地利用が果樹園である。どんな果樹が栽培されているか、確認させる。農家の人がおられたら、出荷先などを質問してみるのもいい。

⑫ 畑

台地上の土地利用の中心は畑であることがわかる、栽培されている作物を確認させる。かつての台地上は平地林であったが、明治期以降開墾されて、桑畑となった。それも戦後の養蚕の衰退、食糧増産にともない、さつまいも畑となっていった。高度経済成長期以降、作物は近郊農業としての露地野菜の栽培がさかんになった。農家の人がおられたら、その他の作物、出荷先などを質問してみるのも

いい。

⑬公園

「どうして、こんなところに公園があるのだろう。」と誰しもが思う公園である。大和市のみどり公園課に確認してみると、この公園は農政課の管理であるという。農政課に確認すると、1996年に国・県の補助金による「農業環境総合整備事業」で、水田の用水路や農業倉庫の整備事業に際して、近隣の住民が農業に親しめるふれあい施設を併設するためにつくったとのことである。

⑭大きな家

かつて農家だった家々が建て替えられたもので、各戸の敷地は広い。古い集落は崖下に立地していた。それは崖下の湧水を飲料水にするためであり、近世の地形と土地利用の関係を想像することができる。

⑮水田

沖積低地の農業的土地利用が水田であるということを実感することができる。この地域は、大和市でも残り数少ない水田がみられる地域である。農家の人がおられたら、品種や出荷先、用水の入手先などを聞き取り調査してみるのもいい。

⑯大型団地

この大型団地は県営のいちよう団地で、横浜市側（いちよう上飯田団地、2,238世帯）と大和市側（いちよう下和田団地）に分布している。いちよう下和田団地は、1973年1月から入居が開始され、5階建が29棟、12階建が2棟で、1,392世帯が入居した。

9 今後の課題

本ワンポイント巡検で期待する成果としては、台地と低地では、農業的土地利用にちがいがあること、その農業的土地利用は都市的取り利用へと変化しており、それも台地と低地ではちがいがあことを観察できる。こうした農業的土地利用から都市的土地利用へと変化していくことを、「都市化」と呼び、その後の学習展開として、地域を大和市域まで拡大し、「大和市の都市化」について調べ、その問題点・課題などを追究し、最後には大和市の将来像を考察するという「身近な地域の学習」へとつなげていけることである。

今後の課題としては、計画のワンポイント巡検を実践して、その成果を検証していくことである。